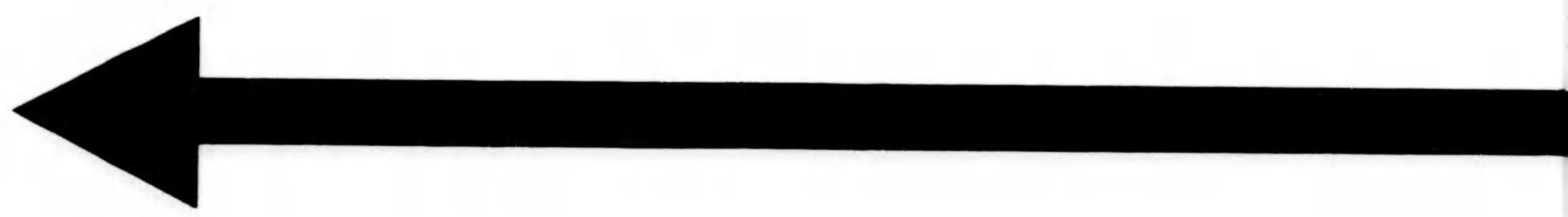


0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15

始



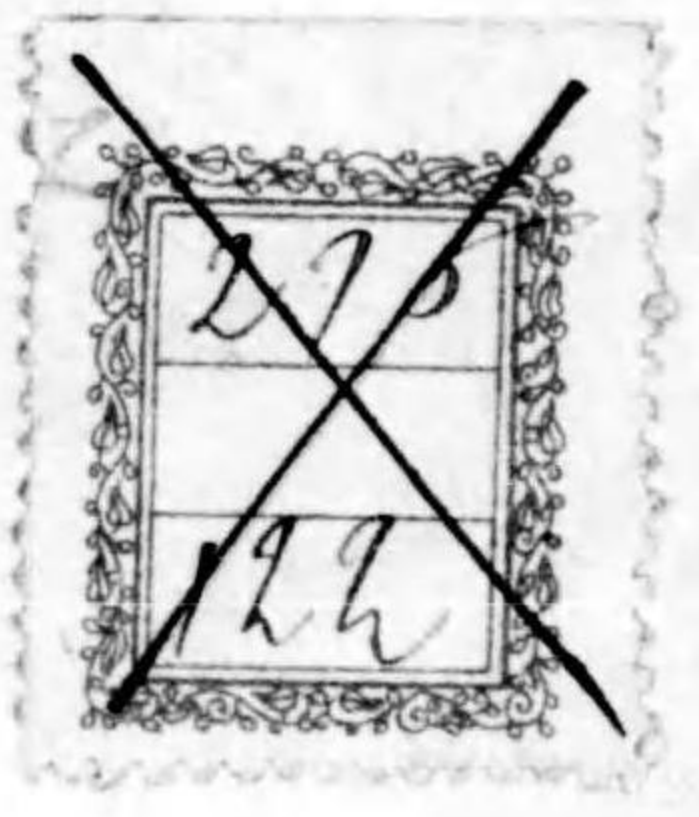
特 103

396

大正二年

夏作試驗案内

茨城縣立農事試驗場



47103
396

夏作試驗案內目次

水 稻

一、在來肥料試驗.....	一
二、窒素質肥料試驗.....	二
三、直播除草回数試驗.....	三
四、直播ト移植トノ比較試驗.....	四
五、直播期並ニ施肥法試驗.....	五
六、苗代肥料試驗.....	五
七、能登特産石灰効力試驗.....	五
八、石灰加用試驗.....	六
九、品種試驗.....	六
一〇、肥料配合法試驗.....	九
一一、豊凶考照試驗.....	〇
一二、株數試驗.....	〇
一三、石灰窒素施用法試驗.....	一
一四、浸種日數試驗.....	一

目次

大正
3. 1. 24

一五、堆肥効力試験……………一二
 一六、株間對苗數試驗……………一二
 一七、同價肥料試驗……………一三

畑作

一、大豆播種期對播種量試驗……………一三
 二、大豆品種試驗……………一四
 三、小豆品種試驗……………一四
 四、大豆肥料用量對播種量試驗……………一五
 五、甘藷品種試驗……………一五
 六、甘藷肥料配合法試驗……………一六
 七、大豆畦幅對播種量試驗……………一七
 八、大豆石灰加用試驗……………一七
 九、大豆草木灰加用試驗……………一八
 一〇、粟品種試驗……………一八
 一一、蒭蒨病害豫防法試驗……………一九
 一二、休閒地ニ於ケル陸稻播種期對播種量試驗……………一九

一三、大豆連作試驗……………一九
 一四、陸稻肥料配合法試驗……………二〇
 一五、陸稻品種試驗……………二〇

水稻 耕種梗概

- 一、品種 品種試験ヲ除キ凡テ中稻玉錦トス
- 二、播種期 早稻四月二十五日、中稻及晚稻ハ四月三十日
- 三、播種量 一坪ニ付大粒種ハ四合小粒種ハ三合
- 四、苗代肥料 (十坪ニツキ)
 - 人糞 五貫 匁
 - 大豆粕 八百四十匁
 - 精過磷酸石灰 百七十三匁
 - 藁灰 一貫三百六十匁
- 五、本田ノ肥料 (肥料試験ヲ除ク)
 - 堆肥 二百貫 匁
 - 大豆粕 十七貫 匁
 - 精過磷酸石灰 四貫五百匁
- 六、移植 早稻六月九日、中稻六月十日
- 七、株數及本數 特別ノ試験ヲ除キ一坪ノ株數及一株ノ本數左ノ如シ
 - 早稻 六十四株 八本

中 稻 五十六株 六本
 晚 稻 四十九株 四本

一、在來肥料試驗

鯧粕ハ米質ヲ佳良ナラシメ大豆人糞尿ハ比較的廉價ナリト稱シ之ヲ施用スル地方少カラザルヲ以テ果シテ上述ノ關係アルヤ否ヤヲ明ニセンガタメ堆肥二百貫ヲ基本肥料トナシ前記ノ肥料ト各同成分量ニ大豆粕、硫酸アンモニア、精過磷酸石灰ヲ配合シ前年度ニ繼續試驗スルモノナリ而シテ前年ノ成績ニヨレバ鯧粕ヲ施用シタルモノハ幾分品質佳良ナルノ觀ナキニ非レトモ未タ優劣ヲ判定スルコト能ハズ大豆及人糞尿ノ成績ハ左記ノ如クナリシモ僅カ一回ノ試驗ナルヲ以テ確定シ難シ

第一區	鯧 粕	肥料代	收 量
第一區ト同成分ニ配 合セシモノ	七圓拾參錢		二石四斗八升六合
第二區	大 豆		五圓貳拾四錢六厘
第二區ト同成分ニ配 合セシモノ	七圓四拾五錢		二石二斗七升一合
第三區	人 糞 尿		五圓九錢五厘
第三區ト同成分ニ配 合セシモノ	五圓四拾錢		二石四斗四升四合
第四區	糞 尿		五圓貳拾八錢參厘
第四區ト同成分ニ配 合セシモノ			二石二斗四升六合
第五區			
第五區ト同成分ニ配 合セシモノ			二石二斗七升七合
第六區			
第六區ト同成分ニ配 合セシモノ			

二、窒素質肥料試驗

現今販賣セラル、各種ノ窒素質肥料中何レノ窒素成分ガ水稻ニ對シ最モ効力大ナルカヲ知ランガタメ堆肥二百貫ヲ基本肥料トナシ大豆粕、硫酸アンモニア、石灰窒素、鯧粕、大豆、人糞尿ノ六種ヲ各甲乙二種ニ同成分量ニ配合シ(甲ハ含有成分ノ全部ヲ有効トシ乙ハ其主成分ノミヲ有効ト見做ス)本年度ヨリ新タニ試驗スルモノナリ

三、直播除草回数試驗

直播セルモノハ移植セルモノニ比シ除草回数ヲ多カラシムルヲ要スレトモ其回数ノ多少ハ收量ニ如何ナル影響ヲ及ホスモノナルカラ知ランガタメ除草回数ヲ一回ヨリ七回ニ至ル七區ニ分チ大正元年ヨリ繼續試驗スルモノナリ而シテ前年度ハ一回ヨリ五回迄ノ試驗ニシテ最モ收量多カリシハ五回除草區ノ二石五斗八升三合ニシテ之ヨリ除草回数ヲ増減スルニ從ツテ收量ヲ減セリ

○附 記

當場ニ於ケル直播ハ播種前移植ノモノト同量ニ堆肥、大豆粕等ヲ施シ整地ヲ行ヒタル後五月一日播種ス播種量ハ反當五升ニシテ發芽後二十五六日ニ至リ株ニ不均

水 稻

一、在來肥料試驗 二、窒素質肥料試驗
 三、直播除草回数試驗

一ナキ様株直シヲナシ其後除草ヲ行フモノトス

四、直播ト移植トノ比較試験

本試験ハ直播セルモノト移植セルモノトハ收量ニ幾何ノ差異アルカヲ知ランガタメ同肥料ヲ用ヒ一ハ四月三十日直播シ一ハ全月全日苗代ニ播種シ六月十日本田ニ移植シテ其生育收量ヲ比較セントス而シテ前二ケ年ノ平均收量ハ直播區ノ二石四斗七升二合ニ對シ移植區ハ二石二斗二升九合ニシテ二斗四升三合ノ相違ヲ示セリ

○附記

前二ケ年ノ成績ニ依レハ直播ハ移植ニ比シ極メテ有利ナル方法ノ如ナレトモ播種前肥料ヲ施ス爲メ移植スルモノニ比シ青草綠肥等ヲ多量ニ施スコト能ハス尙砂質壤土礫質壤土等ノ乾田ニアリテハ稻株中ニ雜草繁茂シ大面積ニ直播スルハ頗ル困難ナリ而シテ直播ヲ行テ最モ利益アル土地ハ移植當時用水ニ不足ヲ告クル水田(天水場)又ハ畑地多キ地方ニシテ勞力不足ノ爲メ移植ノ時期ヲ遅延スル場合ニ行フニ適ス

五、直播期並ニ施肥法試験

直播ノ期節ノ早晚ハ收量ニ如何ナル影響ヲ及ホスモノナルカ直播ノ適期ハ何日頃ナルカ又肥料ハ一回ニ施用スベキカ或ハ分施スルヲ可トスルカ之等ノ關係ヲ知ランガ

タメ當場ノ標準ニ依リ播種期ヲ四月三十日、五月十日、五月二十日ノ三期ニ分チ更ニ各區ヲ甲乙ノ二種トシ甲ハ金肥ノ全量ヲ元肥トシ乙ハ元肥ト追肥トニ半量ツ、分施シ前年ニ繼續試験ス而シテ前年ノ成績ニヨレハ收量ノ最モ多キハ四月三十日播全量元肥區ノ二石七斗二升七合ニシテ全日播半量元肥半量追肥區之ニ次キ施肥法ハ全量元肥區優リ播種期ハ後ル、ニ從ツテ收量ヲ減ゼリ

六、苗代肥料試験

苗代期間ハ僅ニ三十五日乃至五十日ニ過キザルモノナレバ苗代肥料トシテハ可成速効ノモノヲ選ハサルベカラズ故ニ大豆粕、硫酸アンモニア、人糞尿、鱈粕、石灰窒素ノ如キ窒素質肥料ニ就キ甲ハ當場ノ標準肥料ト同成分量ニ乙ハ其五割増トシ何レガ最モ適當ナルカヲ知ランガタメ本年度ヨリ新タニ試験スルモノナリ

七、能登特産石灰効力試験

綠肥或ハ未熟ノ堆肥ヲ施用スルニ當リ石灰ヲ加用スルトキハ其効力ヲ一層大ナラシムルモノナレトモ能登特産石灰ハ普通ノ石灰ニ比シ其効力ニ如何ナル差異アルカヲ知ランガタメ中熟堆肥二百貫、大豆粕十二貫、硫酸アンモニア二貫二百五十匁、精過磷酸石灰五貫百七十五匁ヲ標準トナシ之ニ普通石灰及能登特産石灰ヲ一ハ同成分

水 稻

四、直播ト移植トノ比較試験

五、直播期並ニ施肥法試験

五

(甲)一ハ同價(乙)ニ配合シ前年ニ繼續試驗スルモノナリ
前年ノ成績ハ同成分ニアリテハ能登特産石灰區ノ二石四斗七升六合優リ同價ニアリ
テハ普通石灰區三石三斗二升六合優レリ

八、石灰加用試驗

石灰濫用ノ弊ハ極メラ恐ルベキモノナレトモ多量ノ堆肥ヲ施用スルニ當リテハ之レ
ガ加用ノ效力モ亦少カラザルガ故ニ堆肥ニ石灰ヲ加用シ其肥効ヲシテ一層大ナラシ
ムルニハ幾何量ヲ適當トスルカヲ知ランガタメ完熟堆肥三百貫中熟堆肥三百八十八
貫、新鮮堆肥五百十貫ニ對シ夫々三十貫、四十五貫、六十貫、七十五貫ト順次石灰
用量ヲ増シ明治四十三年ヨリ試驗ヲ繼續スルモノナリ而シテ從來ノ成績ニヨレハ完
熟堆肥ニアリテハ收量最モ多キハ石灰用量六十貫ノ二石二斗五升七合ニシテ石灰用
量ヲ増減スルニ從ツテ收量ヲ減シ中熟及新鮮堆肥ニアリテハ石灰用量多キニ從ツテ
收量ヲ増セリ

九、品種試驗

水稻ノ品種ハ頗ル多ク何レガ本縣ノ風土ニ適スルモノナリヤ容易ニ窺ヒ知ルコト能
ハズ茲ニ於テ當場ハ本縣ニ適スル良品種ヲ選擇シ之レガ普及ヲ圖ランガタメ明治三

十三年來多數ノ品種ヲ蒐集栽培シ優ヲ採リ劣ヲ去リ以テ今日ニ至レリ本試驗ニ供セ
ル品種ハ從來試驗ノ結果良好ト認メタルモノニシテ其品種名並ニ平均收量ヲ擧グレ
バ左ノ如シ

品 種 名	成 熟 期	平 均 收 量
○信洲金子	九月十七日	二石一斗五升一合
○早稻高津	九月十五日	一石八斗九升四合
○上總コボレ	九月七日	二石四升四合
○大場	九月十五日	二石〇二升
○石白	九月廿七日	二石一斗四升
○藤早	九月二十日	二石一斗七升八合
○王子千本	九月二十日	二石一斗二升三合
○備前一本	九月廿三日	二石三斗三升一合
○八丈	九月廿四日	二石二斗五升四合
○金頭	九月廿九日	二石二斗三升九合
○赤珍	九月廿九日	二石二斗七合
○一本早稻	十月三日	二石一斗二升四合

中 稻

○玉	錦	十月十五日	二石一斗一升四合
○荒	木	十月十五日	一石九斗二升二合
○關	取	十月十八日	一石九斗六升七合
○常	豐	十月十日	二石二斗一升六合
○勿	來	十月十日	二石二升九合
○愛	國	十月十日	二石二斗一升五合
○國	益	十月二十日	二石一升一合
○中	神	十月二十日	一石八斗二合

太郎兵衛糯	九月十日	一石八斗三升五合
金砂糯	十月十日	一石八斗七升五合
關取糯	十月十五日	二石一斗八合

○印ヲ附シタルモノハ統一品種ニシテ當場ニ於テ之レガ原々種ヲ栽培シテ各郡へ配付ス各郡ハ原種田ヲ設置シ之ヨリ採種シタルモノヲ當業者ニ配付ス斯クシテ本縣水稻ノ品種ヲ以上ノ十四品種ニ統一セントスルモノナリ

一〇、肥料配合法試驗

現今農家ノ施用スル主ナル水稻肥料ニ就キ其適當ナル配合法ヲ知ランガタメ堆肥二百貫、大豆粕十七貫、精過磷酸石灰四貫五百匁ヲ標準肥料トナシ之ト同成分ニ堆肥大豆粕、鯧ノ粕、大豆、硫酸アンモニニア、精過磷酸石灰等ヲ配合シ又別ニ堆肥三百貫、大豆等ヲ配合シテ前年度ニ繼續試驗スルモノナリ
前年ノ成績ハ堆肥二百貫施用ニアリテハ第一標準區最モ收量多ク堆肥三百貫施用ニアリテハ大豆粕、硫酸アンモニニア、精過磷酸石灰ヲ配合シタルモノ、收量第一位ヲ占ム

試驗ノ區別	肥料代價	前年收量
第一、堆肥二〇〇、大豆粕、精過磷酸	六圓參拾七錢	二石五斗四升七合
第二、堆肥二〇〇、大豆粕、硫酸アンモニニア、精過磷酸、藁灰	六圓五拾四錢七厘	二石三斗三升四合
第三、堆肥二〇〇、鯧ノ粕、硫酸アンモニニア、精過磷酸、藁灰	七圓七拾七錢六厘	二石三斗七升三合
第四、堆肥二〇〇、大豆、硫酸アンモニニア、精過磷酸、藁灰	七圓拾五錢參厘	二石四斗九升
第五、堆肥三〇〇、大豆粕、精過磷酸	七圓參拾五錢	二石七斗三升六合

- 第六、堆肥三〇〇、大豆粕、硫酸ア
ンモニア、精過磷酸 七圓四拾五錢貳厘 二石八斗一升一合
- 第七、堆肥三〇〇、鰾粕、硫酸ア
ンモニア、精過磷酸 八圓六拾錢貳厘 二石五斗六升一合
- 第八、堆肥三〇〇、大豆、硫酸ア
ンモニア、精過磷酸石灰 八圓四錢貳厘 二石七斗八升七合

一一、豊凶考照試験

本試験ハ毎年稻作ノ豊凶ヲ豫察センガタメ早稻ハ高津、常洲早稻、石白、中稻ハ玉錦、荒木、關取、晚稻ハ八重穂、ビツクリ、神力ノ各種ヲ當場ノ標準肥料ヲ以テ栽培スルモノナリ

一二、株數試験

本縣ニ於ケル本田一坪ニ對スル株數ハ少キハ三十五六株ヨリ多キハ百二三十株ニ達ス之レ多クハ其地方ノ習慣ニ依ルモノニシテ必ズシモ最適ノ株數ト認ムルコト能ハズ故ニ先ヅ當場ノ土質ニ於テ適當ナル株數ヲ知り之ヲ以テ他ヲ推定センガタメ一坪三十六株ヨリ百二十株ノ範圍ニ於テ七區ヲ設ク明治四十四年ヨリ試験ヲ繼續セルモノナリ而シテ前二ヶ年平均收量最モ多キハ七十二株ノ二石二斗九升三合ニシテ之ヨリ株數ヲ増減スルニ從ツテ收量ヲ減ゼリ

一三、石灰窒素施用法試験

石灰窒素ハ之ヲ土壤ニ施セバ有害ナル瓦斯ヲ發生シ作物ノ生育ヲ害スルモノナレバ移植當日之ヲ施用スルトキハ往々稻ノ枯死スルコトアルヲ以テ移植一二週間前ニ施シ置クベキモノナレトモ作業ノ都合上移植當日施用ヲ便トスルコトアリカ、ル場合ニ於ケル施用ノ方法ヲ知ランガタメ次ノ如キ區別ニ依リ本年度ヨリ試験ヲ行フ

- 第一、當場標準肥料
- 第二、石灰窒素ヲ移植二週間前ニ施ス
- 第三、實際施用スベキ堆肥ト石灰窒素ヲ二週間前混合シテ以ニ入レ堆肥舎ノ一隅ニ置キ移植當日ニ施ス
- 第四、移植二週間前石灰窒素ヲ十培ノ堆肥ト混合シテ以ニ入レ堆肥中ニ埋メ置キ移植當日施ス
- 第五、移植二週間前十培ノ堆肥ト混合シテ以ニ入レ堆肥舎ノ一隅ニ置キ移植當日ニ施ス
- 第六、移植二週間前十倍ノ土ト混合シテ以ニ入レ堆肥舎ノ一隅ニ置キ移植當日施ス

一四、浸種日數試験

水 稻

一一、豊凶考照試験 一二、株數
一三、石灰窒素施用法試験 一四、浸種日數試験

浸種ハ發芽ニ要スル水分ヲ吸收セシムルヲ目的トスルモノナレハ五日以上浸種スルノ必要ナキモ從來ノ習慣ニヨリ徒ラニ永ク浸漬シ今尙芽出播ヲナス地方サへ少カラズ依ツテ無浸種、及五日、十日、二十日浸種ノ五區ニ分テ浸種日數ノ長短ガ生育ニ如何ナル影響シ及ホスカヲ實地ニ示サンガタメ試験ヲ行フモノナリ

一五、堆肥効力試験

近時金肥ノ施用頓ニ増進シ動モスレバ基本肥料タル堆肥ノ効力ヲ輕視シ金肥ノミヲ使用スルガ如キ傾向アリ故ニ肥料經濟上堆肥ノ効力ヲ知ランガタメ堆肥二百貫、大豆粕八貫五百匁、硫酸アンモニア二貫九百七十五匁、精過磷酸石灰四貫五百匁、藁灰三貫八百匁ヲ標準トシテ堆肥ヲ二百五十貫、三百貫、三百五十貫、四百貫ト用量ヲ増スト同時ニ金肥ノ用量ヲ減ジテ標準ト同成分トナシ更ニ金肥ノミヲ使用スルモノヲ加ヘテ六區トナシ本年度ヨリ試験ヲ行フモノナリ

一六、株間對苗數試驗

株間ノ廣狹ニ從ヒ一株ノ苗數ハ自ラ異ラザルベカラズ依ツテ適當ナル株間及苗數ヲ知ランガタメ一坪ノ株數ヲ七十二株、八十四株、百二十株、百四十株トナシ苗數ハ早稻ハ一本ヨリ八本中稻ハ一本ヨリ六本ノ範圍内ニ於テ十三區ニ分チ早稻ハ信洲金

子、中稻ハ常豊ニ就キ本年度ヨリ試験ヲ行フモノナリ

一七、同價肥料試驗

肥料ノ選擇ニ注意スルハ經濟上最モ緊要ナルコトヲ實地ニ示サンガタメ水稻肥料トシテ盛ニ施用セラル、日星印完全肥料一號[㊦]特製完全肥料七號及大豆粕、大豆、鰾粕、人糞尿ヲ各同價ニ配合シテ其生育收量ヲ比較ス

畑 作

一、大豆播種期對播種量試量

近來麥作改良ノ結果繁茂ノ爲メ間作タル大豆ハ播種ニ不便ヲ來シ又草丈長ク成熟期晚キ小麥ノ中ニ早播スル時ハ伸過ギテ却テ收量ヲ減少スルノ恐レアリ從テ遲播ノ必要ヲ認メタルヲ以テ本試験ハ小麥ノ間作トシテ播種期ヲ六月十五日、六月二十日、六月二十五日、六月三十日ニ區別シ各三升播、四升五合播、六升播トナシテ播種期ニ對スル適當ナル播種量ヲ知ラン爲メ明治四十四年ヨリ繼續試験セリ前二ケ年ノ成績ニヨリ良好ナル播種量左ノ如シ

水稻 一五、堆肥効力試験 一六、株間對苗數試驗 一七、同價肥料試驗 畑作 一、大豆播種期對播種量試驗

六月十五日	六升播	一石一斗三升五合
六月二十日	六升播	九斗六升九合
六月二十五日	六升播	九斗五升五合

二、大豆品種試験

本試験ハ明治三十四年ヨリ繼續施行スルモノニシテ從來試験ノ結果良好ナル品種ノ平均收量左ノ如シ

本種赤莢	九斗五升三合	赤莢	一石一合
生娘	一石四升八合	地塚	一石四升二合
小福	一石四升五合	白裸	一石七升六合

播種期ハ五月三十日ニシテ播種量ハ反當三升、大粒種ハ三升五合、肥料ハ反當堆肥百貫匁、硫酸アンモニア一貫匁、精過磷酸五貫二百五十匁、藁灰五貫匁

三、小豆品種試験

小豆ハ明治三十八年ヨリ繼續施行シ從來ノ試験ノ結果良好ナル品種ノ平均收量左ノ如シ

夏四十日	八斗一升八合	早生	八斗八升九合
------	--------	----	--------

赤 六斗九升四合

播種期ハ六月八日ニシテ播種量ハ反當一升五合、肥料ハ反當堆肥七十五貫匁、精過磷酸三貫八百匁、木灰五貫匁

四、大豆肥料用量對播種量試験

本試験ハ大豆ヲ栽培スルニ當リ肥料用量ノ多少ニヨリ播種量ヲ如何ニ加減スベキカヲ知ランガ爲標準肥料(品種試験ノ肥料)及ビ其ノ二割五分増、五割増トシ各二升播三升播、四升播ノ別ヲ設ケ昨年ヨリ繼續試験ス而シテ昨年ノ成績良好ナルモノ左ノ如シ

標準肥料	四升播	八斗五升二合
二割五分増	三升播	九斗二升一合
五割増	三升播	一石一斗三升三合

五、甘藷品種試験

昨年試験ノ結果良好ナル品種ノ收量左ノ如シ

鹿兒島	五百六十九貫二百六十匁
薄赤	五百六十六貫三百五十匁

畑作

二、大豆品種試験 三、小豆品種試験 四、大豆肥料用量對播種量試験 五、甘藷品種試験

飯郷 五百五十四貫四百匁
 肩拔 四百八十九貫九百六十匁
 川越 四百八十九貫六百匁

挿植期ハ五月十八日、施肥期ハ六月廿日、肥料ハ反當堆肥百貫匁、大豆粕四貫五百匁、精過磷酸二貫二百匁、藁灰八貫匁

六、甘藷肥料配合法試験

甘藷ノ肥料トシテハ從來米糠ヲ施用スル習慣アレトキ比較的高價ニシテ且ツ住々砂ヤ麥糠等ノ混合物アリテ價格ノ割合ニ肥効ノ少ナキモノナレバ各種肥料中何レガ最も適當ナルカラ知ランガ爲メ米糠、大豆粕、硫酸アンモニア、智利硝石ニ於キ左ノ如ク同成分ニ配合シテ試験ヲ施行ス

米糠 區	米糠十五貫匁、藁灰五貫匁
大豆粕 區	大豆粕四貫四百六十匁、精過磷酸二貫二百二十匁、藁灰七貫七百匁
硫酸アンモニア區	硫酸アンモニア一貫五百六十匁、精過磷酸二貫三百五十匁、藁灰九貫六百七十匁
智利硝石區	智利硝石二貫匁、精過磷酸二貫三百五十匁、藁灰九貫六百七十匁

七十匁

昨年ノ成績ニ據レバ品質ハ何レモ大同小異ニシテ殆ント甲乙ノ區別ナキモ收量ノ代價ヨリ肥料代價ヲ差引キテ最モ收益ノ多キハ硫酸アンモニア區ニシテ大豆粕區之レニ次ギ米糠區ハ第三位ニアリ各區ノ收量左ノ如シ

米糠 區	四百八十貫九百九十匁
大豆粕 區	五百七十二貫百三十匁
硫酸アンモニア區	五百八十八貫六百二十匁
智利硝石區	四百十貫四百匁

七、大豆畦幅對播種量試験

大豆ノ播種量ニ就テ從來一反步三升ヲ標準トセシハ畦幅二尺ノ場合ナルガ之レガ廣狹ニヨリ播種量ヲ如何ニ加減スベキカラ知ランガ爲メ畦幅ヲ二尺二寸、二尺、一尺八寸、一尺六寸トシ各三升播、四升播、五升播ノ別ヲ設ケ本年ヨリ試験ヲ始ム

八、大豆、石灰加用試験

本試験ハ大豆ニ石灰ヲ施用セントスル場合ニ幾何量ヲ加用シテ可ナルカラ知ランガ爲メ標準肥料(品種試験ノ肥料)石灰五貫匁加用、全十貫匁加用、全十五貫匁加用、

畑作

六、甘藷肥料配合法試験
 八、大豆石灰加用試験

十七

全二十貫匁加用ノ別ヲ設ケ施行ス

九、大豆草木灰加用試験

本試験ハ本年新設ニシテ石灰ハ年々多量ニ施用スル時ハ土地ヲ惡變スルガ故ニ成ル可ク草木灰ヲ用ユルヲ可トス草木灰ハ石灰分ノ外多量ノ加里磷酸ヲ含有スルヲ以テ大豆ノ肥料トシテハ最モ良好ナリ依テ之レガ用量ヲ増加セバ收量品質ニ如何ナル影響ヲ及ボスカヲ知ランガ爲メ藁灰五貫匁、全七貫五百匁、全十貫匁、全十二貫五百匁、全十五貫匁ノ別ヲ設ケタリ

一〇、粟品種試験

本試験ハ明治參拾四年ヨリ繼續ニシテ從來ノ試験ノ結果收量多キ品種ノ平均收量左ノ如シ

黃粟 (粳)	一石五斗九升五合
孔雀 (糯)	一石六斗一合
主不知 (糯)	一石六斗九升七合
糯粟 (糯)	一石八斗一升九合
半六 (糯)	一石六斗八升

播種期ハ六月二十九日、播種量反當五合、肥料ハ反當堆肥百貫匁、人糞尿五十貫匁精過磷酸三貫八百匁、大豆粕七貫匁、藁灰十貫匁

一一、蒺藜病害豫防法試験 (上ノ畑)

蒺藜ハ收益多キ作物ナルトモ恐ルベキ病害アリテ住々收穫ノ皆無ニ至ルコトアリ之レガ豫防法ニ就テハ從來幾多ノ試験ヲ重ネシモ未ダ良法發見セラレズ一時試験ヲ中止セシモ昨年度ヨリ再ビ試験ヲ開始セリ

一二、休閒地ニ於ケル陸稻播種期對播種量試験

本試験ハ冬季休閒セシメタル畑地ニ播種スル場合ニ於テ其ノ適期及播種量ヲ知ランガ爲メ播種期ヲ五月一日、五月十日、五月二十日トシ各三升播、四升播、五升播、六升播ノ別ヲ設ケ昨年ヨリ施行セリ試験ニ供シタル品種ハ粳、吉川、糯、凱旋ニシテ其前一ケ年ノ成績ハ二種共五月一日六升播最モ收量多シ

一三、大豆連作試験

大豆ヲ連作スル時ハ成育不良ニシテ收量減少スルノミナラズ病害等ニ罹カリ易キガ故ニ之レガ適當ナル豫防法ヲ知ランガ爲メ年々同一畑ニ同一方法ニ依リ一昨年ヨリ

畑作

九、大豆草木灰加用試験 一〇、粟品種試験 一一、蒺藜病害豫防法試験 一二、休閒地ニ於ケル播種期對播種量試験 一三、大豆連作試験

試験ヲ開始セシモ日尙ホ淺キヲ以テ成績未ダ明ナラズ連作試験ノ方法ハ無肥料、硫酸アンモニア、智利硝石、人糞尿、大豆粕、骨粉ヲ各標準肥料ト全成分ニ配合シ又別ニ標準肥料ニ木灰加用、同石灰ノ別ヲ設ケタリ

一四、陸稻肥料配合法試験

陸稻ヲ栽培スルニ當リ最モ良好ナル肥料ノ配合法ヲ知ランガ爲メ大豆粕、硫酸アンモニア、智利硝石、醬油粕、鯨ノ粕、石灰窒素ヲ各主肥トナシ之レニ堆肥、人糞尿精過磷酸ヲ加ヘ各區共全成分ニ配合シ吉川及凱旋ニ付キ一昨年ヨリ試験開始セリ而シテ前二ヶ年平均收量ニテ最モ收量多キハ堆肥百五十貫匁、大豆粕十貫匁、硫酸アンモニア三貫四百三十匁、精過磷酸三貫三百三十三匁ヲ配合シタルモノニシテ吉川種ハ一石六斗二升五合、凱旋種ハ一石六斗七升二合ナリ

一五、陸稻品種試験

本試験ハ明治三十四年ヨリ繼續施行シ本縣ニ適良ナル品種ヲ選擇セントスルモノニテ從來試験ノ結果良好ナル品種ノ平均收量左ノ如シ

水戸錦	一石三斗二升三合	五臺	一石四斗九升七合
照熊	一石四斗三升八合	吉川	一石五斗二升七合

凱旋	一石七斗四升四合	信州	一石五斗六升
關取	一石九斗二升八合	戰捷	一石七斗五升一合

播種期ハ五月十五日、播種量反當四升、大粒種四升五合、肥料ハ反當推肥二百貫匁人糞尿五十貫匁、大豆粕十二貫匁、硫酸アンモニア二貫匁、精過磷酸三貫八百匁

210
122

大正二年八月十日印刷
大正二年八月十五日發行

茨城縣立農事試驗場

〔東茨城郡酒門村〕

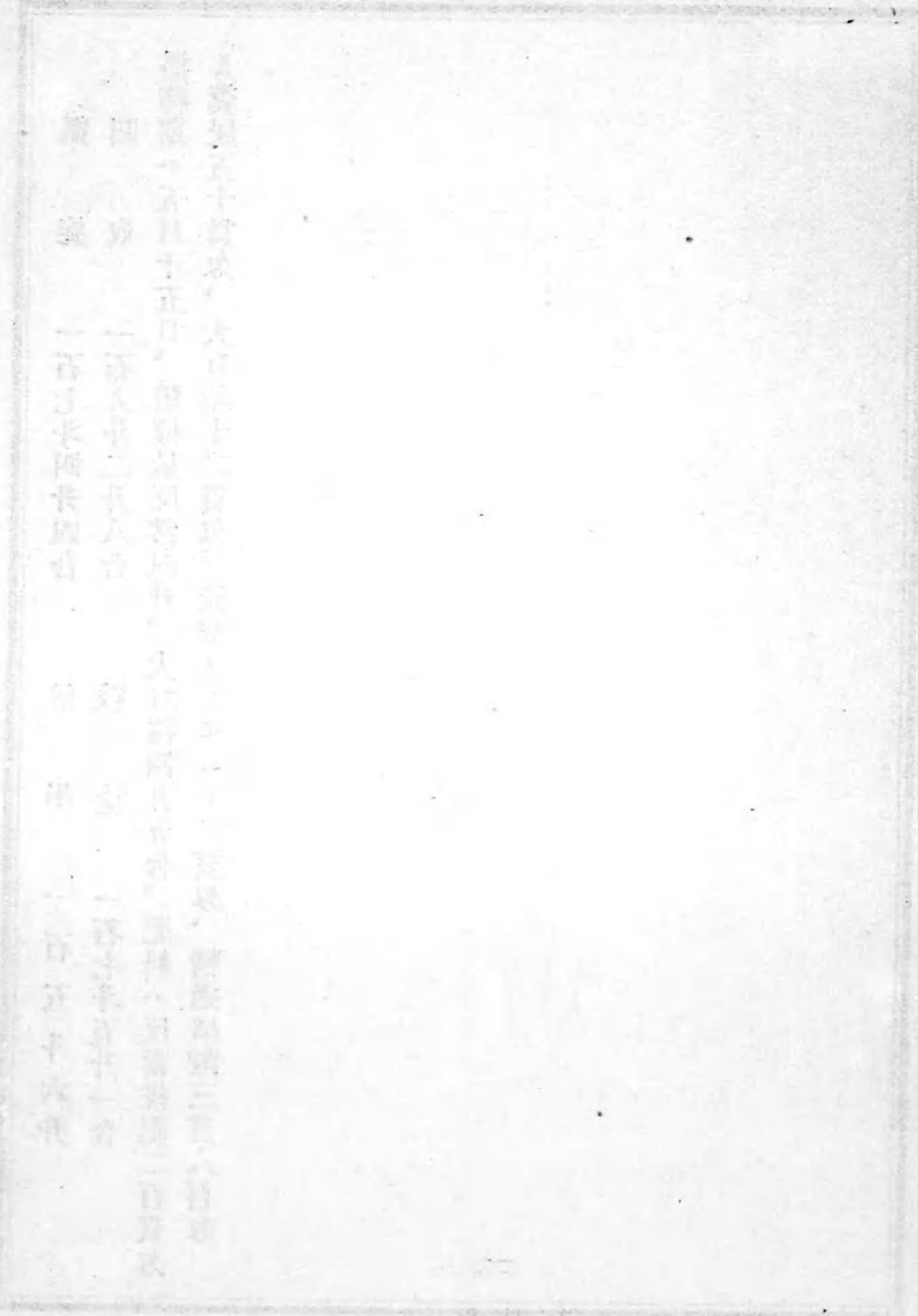
茨城縣水戸市大字常磐神崎六十五番地

印刷者 吉田政男

茨城縣水戸市上市泉町千百〇四番地

印刷所 加納印刷所

(電話四九番)



終

